

「宇宙を教育に利用するためのワークショップ」(SEEC2019) 成果活用報告書提出票

2020年 3月 31日 作成

所 属	ひばりの保育 石垣のいえ
氏 名	廣本美保
添付書類	* 八重山毎日新聞 記事 2018年10月20日 * 八重山日報 記事 2018年10月24日 * 八重山毎日新聞 記事 2019年2月1日
備 考	

(1) SEEC参加によって得られた成果の授業への活用実績

● ①成果活用の場

ひばりの保育 石垣のいえ 懇談会

②実施日

2019年3月21日

③参加者の所属・人数

当園に在園する、0～2歳児親子 12組
保育士10名

④実施内容

SEEC参加報告(写真付き報告書を配布し発表内容等説明)、風船トランポリン体験

⑤所感

児たちとは以前から遊んでいた風船トランポリンを保護者にも体験していただきたく懇談会で実施。

SEEC体験の話はゆっくり聞いていただきたかったので、児たちとは別エリアで行う。すごく興味深く聞いてくださり、「自分も行けるものなら行ってみたい」「もっと話が聞きたい」などの言葉をいただく。

風船トランポリンも児たちが体験していたことは知っておられたので、楽しみにして下さっていた。子どもが嬉しそうに遊ぶ姿を見たり、親子で一緒に楽しく体験する。

● ①成果活用の場

兵庫県赤穂郡上郡町立高田小学校にて授業

②実施日

2019年5月22日

③参加者の所属・人数

高田小学校 3年生 27名 教師 3名

④実施内容

SEECで発表した内容を本土の小学生向けに変えて授業、風船トランポリン体験

⑤所感

始めに、なぜこの学校に授業をしに来たかを話すと、とてもビックリして喜んでくれた。と言うのも、私の兄が勤務する小学校だったからである。(兄も授業参加)

「廣本先生が2人おる～」と笑っていた。

授業の方は私が住む石垣島の話から入る。そして地球、宇宙の話「宇宙に興味がありますか？」と聞いても数名が手をあげただけだった。

宇宙の中の地球、その地球にしかないであろう[空気]をつかまえて遊ぼうの導入から風船トランポリンの体験へ入る。

紙コップを使った圧力の分散の実験では[つぶれない・割れない]を表すためのものだったが、当クラスの担任の先生が乗ったときに割れてしまい、圧力が分散されず偏ると割れる話しもできた。(子どもたちは自分たちの先生が乗って割れたことですごく笑っていた)

圧縮袋に入れ、空気を吸い、圧縮する作業は子どもたちはどうなっていくんだろうと悔いるように見ていた。

出来上がって乗る際に少し怖がっていた児童もいたが、割れないとわかると手をつなぎ5,6人で乗っていた。

体験中は声をあげて楽しんでいた。

体験後は「この遊びをヒューストンでもやってきましたよ」とＳＥＥＣ体験の話をする。

アポロチョコの写真を資料に組み込み、ロケットの話をすると「おーー」と反応していた。

その後、宇宙飛行士の油井さんからいただいた、ＩＳＳから見た地球の写真、映像をクイズ形式で見せるとイキイキと答え、目がキラキラしていた。

最後に「身の回りには不思議なこと、楽しいことがたくさんある。

色んなことに興味を持ち、不思議だな？どうしてだろう？と思ったら、是非調べてみて下さい。きっとすべて宇宙につながっているから」と話をしたあと、「宇宙に少しでも興味を持ちましたか？」ともう一度尋ねると半数以上の児童たちが手をあげてくれていた。

《おまけ》で兄と私の小学生の時の2ショット写真を見せると大笑いしていました。
(もちろん、兄も教室の後ろで笑っていました)



(2) S E E C参加によって得られた成果の学会等への発表実績

● ①成果活用の場

ひばりの保育 石垣のいえ 保育室

②実施日

2019年2月14日

③参加者の所属・人数

勤務園所属の保育士・8名

④実施内容

S E E C参加の報告、現地校訪問の報告

・現地で撮影したものを見せながら、説明・感想を発表

⑤所感など

S E E C体験の様子は静かに聞いて下さっていたが、現地校の報告の時は関心を持ち、感想や質問などがあり盛り上がる。

風船遊びは今後も続けていきましょう。と声が上がる。

(今でも風船遊びはトランポリンも含め保育に取り入れている)

- ①成果活用の場
参加教育者の自宅

- ②実施日
2019年5月19日

- ③参加者の所属・人数
兵庫県内小学校教員・3名

- ④実施内容
S E E C 参加の報告、現地校訪問の報告
 - ・現地で撮影したものを見せながら、説明・感想を発表

- ⑤所感など
S E E C 報告はとても興味深く聞いて下さり、自分も参加してみたいと言う先生もいた。(後日、S E E C 募集のチラシを送付)
現地校の報告はやはり身近なことなので質問も多く、盛り上がる。
学校のフリースペース・給食スペース、給食システムなど驚き、感心していた。
現地の校長先生と障害児との関わり方、その児童を持つファミリーとのコミュニケーションをどうしているのかを聞いた内容を話すと、とても興味深く聞いてくださいり、その後の会話も盛り上がる。

* 参加者は、このあとずっとS E E C 参加の題材を考えていたらしいが、思うものが見つからず今年度は断念したと言っていた。

- ①成果活用の場
ファミレスの一角

- ②実施日
2019年5月19日

- ③参加者の所属・人数
神戸親和女子大学 発達教育学部 教授・1名

- ④実施内容
S E E C 参加の報告、現地校訪問の報告
 - ・現地で撮影したものを見せながら、説明・感想を発表

- ⑤所感など
友人が知人に私のS E E C 体験をはなすと、とても興味を持ってくださいり、急遽、その友人の知人と会うこととなる。
以前は幼稚園の園長もされていたようで幼児教育に大変力を入れておられる方でした。
S E E C 体験のことも興味をもって聞いてくださいり、現地校のこと(学校の姿勢、設備、給食のシステム)も感心されていました。
これから幼児教育の話に発展し 2人だけでしたが色々なことを話し合えた貴重な時間でした。
S E E C に是非参加していただきたいパワフルな方でした。
もちろん「S E E C に行って欲しいです、応募してください」と伝えました。

(3) S E E C 参加によって得られた成果の教育関係書籍への投稿・掲載実績

- 中学・高校の母校が発行している卒業生に配布される会報誌
【あらむね】に特別寄稿で載る



- 勤務園の 2019 年度の誕生日カード《宇宙ロケット》を作成

ロケットの窓には誕生児の顔。閉じた状態から広げるとロケット発射の状態になる。裏は木星、火星、土星のイラストを貼り身長・体重が書き込める。
当園は乳児のみなので目で見るもので《宇宙》を知ってもらう。
「ロケット」と言えるようになり、毎回カウントダウンでロケットを飛ばし誕生児を祝った。



(4) S E E C に参加した他の教育関係者との交流実績

J A X A のセッションに参加してくださった海外の方々とは Facebook で繋がっており、メッセージなど今でも送り合っている。
(私が行った風船トランポリンも授業に取り入れてくださり Facebook に載っている)

一緒に S E E C に参加した小島先生とは電話や LINE で連絡を取っている。
2020 年 S E E C に参加された藤田先生とも Facebook で繋がりメッセージ交換をしている。

(5) その他S E E C参加によって得られた成果の教育現場への活動実績

● ①成果活用の場

石垣市健康福祉センター内 こどもセンタールーム

②実施日

2020年1月18日

③参加者の所属・人数

こどもセンターに登録している児童（幼児～小学生）30名 教員・大人10名

④実施内容

宇宙の話と風船トランポリン体験

⑤所感など

当日、トランポリンを半分仕上げた状態で入室。自由に遊んでいた児童たちが寄つてきて「何？何？」と興味を持ってくれた。「あとでね」と期待を持ってもらう。

児童たちとコミュニケーションを取るためドッジボールをして遊ぶ。

暫く遊び、「今日はみんなと楽しいことをしに来ましたー」と声をかけ始める。

石垣島→沖縄県→日本→地球→宇宙の流れで話をしたが低学年以下の児童はキヨトンとしていた。

圧力分散の話をして紙コップの実験になると児童たちもジッと見てくれていた。

紙コップに乗りたい乗りたいと嬉しそうに言う。

1個の風船をお尻で割ると大喜び、この風船に乗って遊びます！というと
「えーーーっ」と嬉しいリアクション。

この瞬間から、児童たちの興味がより一層大きくなっていた。

乗り方をレクチャーしてから順に乗ってみる。

そーっと怖々乗る児童や怖がることなくすぐに乗る児童など様々。

乗った後は声をあげて喜んで遊んでいた。

先生方にも体験をしてもらう。5人で一緒に座ってもらったが、
{風船は割れる}がインプットされている大人は怖々と座っていた。

それでも割れなかつたので、乗った大人はもちろん児童たちも大喜びで拍手が起こっていた。

最後に「不思議だったでしょ？みんなのまわりには不思議なことがいっぱいあります。色んなことに興味を持って、どうしてだろう？て考えてみてね、きっと宇宙に繋がってるから」と言う話で締めくくりました。

*風船トランポリンはセンターに置いていきますねと伝えると大喜びしていた。



※ 3月に活動予定していた小学校と保育園の2件は新型コロナウイルス感染症対策を受け、断念いたしました。

水曜日。(日刊)

八重山日報

月きみ購読料1750円(税込) 昭和52年11月

県高校生中国語発表会で入賞した八商工生徒=23日
午後、八商工高校長室

八重山商工高校（新城英人校長）は23日午後、20日浦添市で開かれた「第14回沖縄県高校生中国語発表会」の各部門に入賞した生徒7人を校長室で激励した。同発表会では18人が入賞しており、そのうち7人が同商工生といつ好成績。

中国語担当の石垣麗子

教諭は「これまでの中でも一番多い入賞者がが出た。生徒らは休日も返りし、練習に取り組んだ。やる気のある頑張りが良い結果を出した。全国大会で

これまでの2位を上回る

1位を獲得してほしい」と笑顔を見せた。

入門の部・課題文で1位になった2年の仲本長尚君（16）は「日本語でないアルファベット文字

のピッキンが難しかった。校内予選に向け9月から練習した。ライバル校相手に力までできた

と話し、初級の部・課題

で3位になった2年の上

地海春さん（17）は「う

れしさ、くやしさ半々の

気持ち。全国大会で力を

発揮し、大会参加で多く

を学びたい」と意気込

んだ。京都外語大学で開かれ

る全国大会に派遣され

る。

入賞者は次の皆さん。

（入門の部）課題文「優しい小熊のお話」▽1

位）工業情報技術科2年

仲本長尚▽2位▽同2年

波照間巧海▽3位▽同2年

【初級の部】課題文「井

中の蛙」▽3位▽商業

観光コース2年上地海春

【朗説の部】虎の威

をかりる狐▽3位▽商業

観光コース2年中川咲穂

【スピーチの部】私は

と中国語▽2位▽商業

コース1年入里奈留美▽

3位▽同1年砂川莉凜

【スピーチの部】私は

と中国語▽2位▽商業

2年塩川莉世



廣本さん、NASAへ

ひばりの保育石垣の家

（佐々木健一園長）保育士

の廣本美保さん（54）がこ

のほど、米テキサス州にある米航空宇宙局（NASA）

のスペースセンターヒューリ

斯顿で教育者向けのイベ

ント「宇宙を教育に利用す

るためにワークショップ」

（同センター主催）に参加

するためのワーキングショップ」

派遣は宇宙航空研究開発

日本代表で派遣

★風船トランポリン★をテーマに英語でプレゼンテーションを行つ。

八重山からは、廣本さんをバックアップした同園保育士の東里さん（40）に次いで2人目。東里さんは万華鏡を用いたプログラムで同ワークショップに参加した。

東里さんは「風船が割れ、驚く子どものトラウマを取り除くために、風船を布団圧縮袋に入れ真空にしたトランポリンで園児と遊ぶ廣本さんを見て『これだ』と思、参加を持ちかけた」と話している。

日本代表として派遣され

る。「LET'S JUMP

台湾特急脱線事故

運転士 動力系統

〔宜蘭共同〕木梨孝亮

18人が死亡した台

湾東部宜蘭県での特

急列車脱線事故で、宜

蘭県の裁判所の報道官

は23日、特急の運転士

が「列車の動力系統に

問題があり、列車自動

制御保護システム（APT）を切った」と述べを明らかにした。

22日夜に検察当局が

業務上過失致死容疑で

運転士の勾留を請求し

て運転士が述べたと

いう。運転士は23日朝、

保険金50万台湾元（約

180万円）を支払い

保険された。

裁判所によると、運

転士は事故現場から約

40キロ手前の地点で、

TPを切ったといい、

それから動力系

統に異常があつたと述

べた。一方、検察当局

が事故発生時に限速度の時速80キロ

は9月定例会17日目の23を開き、行き詰まり状態

風船トランポリンでの幼児保育を実践。中央、廣本さん。左、東里さん

この日も議長選出のため投票を行つた。賛否が5対5の同数のため、くじ引きで当選者を決めた。賛否は78回となつた。24日も

採用説明会を

ホテルで初開催

思っている人ほど可能性がある。仕事をしながら一人前になっていた

由紀さんと
が特別参加

トサル大会

Aチーム9位八重山農林高校
最優秀賞U-12は後藤優月(八重山農林高校)
小6年、まきら女子フットサル部
「アメリカに行くのは初めて。楽しんできた」と話す廣本美保さん
「グランヴィリオリ



「アメリカに行くのは初めて。楽しんできた」と話す廣本美保さん
（1月28日午後「ひばりの保育石垣のいえ」）

保育士の廣本美保さん

「ワクワク感が大きくなってきた」

JAXAの宇宙教育プログラム海外派遣事業

2日にアメリカ向け出発

宇宙航空研究開発機構（JAXA。ジャクサ）が日本のクシショップで発表を行う「ひ

ばりの保育石垣のいえ」（美崎町）保育士の廣本美保さん（54）が2日、アメリカに向

けて石垣島を出発する。

昨年の8月に応募し、9月に合格の知らせが来た。「合

格するもと思っていたが、

驚いた」という廣本さん。

出発前に「本番に向けてア

レゼンテーションの練習をす

るたび不安だったが、今は楽

しむ気持ちのほうが大きい。

ワクワクしている。発表はし

設見学もあるので楽しんでき

たい。石垣島もしっかりとP

Rしてきます」と意気込みを語る。

風船トランポリンを発表

「宇宙を教育に利用するためのワクシショップ」は、米国NASA／ジョンソン宇宙センター（JSC）のスペー

スセンター・ヒューストンが主催する教育関係者向けのイベント。全米、カナダ、オーストラリア、日本などから600人以上の教育関係者が集う。教育に「宇宙」を活用することを目的にさまざまな指導方法や教材について、170ほどのセッションに分かれ

て発表や情報交換が行われる。国内では昨年4～8月下旬まで、幼・保育園、小学～高校まで教職にある者を対象に募集があり、廣本さんは、勤務先の園で使用している風船トランポリンの活用法などをリポートにまとめて応募した。同事業でNASAへ派遣されるのは八重山から2人目、県内では5人目で、今回は廣本さんと新潟県の小学校の女性教諭が派遣される。

派遣体験者がアドバイス

応募のきっかけは、同じ園で働く保育士の東里香絵さん（41）の勧め。東里さんは2015年、はてるま幼稚園勤務時代に八重山から初めて同

ワークシショップでNASAに派遣された。石垣のいえで使われていた風船トランポリンにひらめき、廣本さんに助

兵庫県から2001年に石垣島へ移住

廣本さんは兵庫県出身。1964年生まれ。地元の賢明女子学院から大阪青山短期大学に進み幼児教育を学ぶ。幼稚園・保育園教諭の資格を得て卒業後は、大阪市で保育士として10年余り働く。2001年に石垣島に移住。観光関連の手作り工房で15年間勤務した後、17年7月から「ひばりの保育石垣のいえ」で保育士として勤めている。

す」と通じた。榛葉氏への答弁。民主党の榛葉賀津也参院幹事長への答弁。同省は既に退職者を含む職員22人を処分し

参院本会議で答弁する根本匠厚労相（31日午前）

「GDPなどに影響がないことが確認されても代表質問を行う。定。3月に公表される予定。昨年4～5月に煙

発を利用していること。ラルトニアを抽出する再処理を行う寧邊の「放射化学研究所」ディプロマットは昨年、カンジンは平壌郊

の初め。米誌

ンジンに日本でICB部の国境付近でM基地を建設していることも報告した。

チーのコーチングは、日本代表を教えたいたなはいですが。子どもたちももちろん大人やママさんたちにも大きな刺激になつてゐ」と感謝。さらに「毎年、石